

(概要) 総合教育会議 2018.2.19

次長 総合教育会議を開催いたします。本日、司会を務めます大山町教育委員会の佐藤です。宜しく願いいたします。では最初に挨拶を町長さん、金田委員さん、それぞれにお願いしたいと思います。では町長さんお願いします。

町長 大山町総合教育会議ということで一年に1回はこういう会議をすることになっておりますけれども、今年度の当初、私が就任した直後だと思いますが教育委員会にお邪魔させていただいて、いろいろと意見交換させていただきました。あれは形式的には総合教育会議ということではなかったですけども、ああいった意見交換の場がもっとたくさんあってもよいのではないかと思っております。今日の意見交換を通じて教育委員さん側の考えと町長部局側の考えが、より擦り合わされて一つになって町づくりを進めていければと考えていますので宜しくお願いいたします。

委員 町長さんには就任以来、立て続けに新しい施策をぐいぐいと進めていただいております。そういう面では私たちの期待も非常に大きいわけでございますけれども、そのあたりの施策と私たちベテランの教育委員ばかりで、長い方では10年以上教育委員をやっておられますけれども、その間にいろいろな経緯があつて今日ここまでできているわけでございますので、そういった認識も意見交換しながらより町づくりがどんどん進んでいけますように充実した会をやりたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

次長 日程第一の協議事項としまして大山町定住化に関する施策と児童福祉に関する施策とありますが途中、共通しているものもあると思いますので、一番二番合わせられた話し合いになるかもしれませんが、ご了承していただきたいと思ひます。

町長 1月22日から情報発信ということで職員が使うインフォメーションというシステムの機能を使って毎日情報発信を試験的に始めました。目的は管理職会で管理職に説明したり議会で議員と議論したりするのですが職員と直接話すことは限られた時間しかなくて漏れ伝わる話しか届かないということがありますので、電子的に情報発信するのはお金もかかりませんし時間もかかりませんので、しっかり活用して全職員に政策的な意図ですとか、なぜそういった判断をしたのかということの説明していこうかなと思ひます。試験的に始めてみましたが反応が割合よかったですので2月もそのまま続けていこうかなと思ひています。一部を今日お配りしています。

委員 八光レストランの塙だったところが、あっという間に造成されて家が建っていますが、田舎から出て行くという時代に造成されるとすぐに家が建つというのはさすが大山町だなと思ひます。

町長 業者が宅地を作るきっかけというのが宅地を整備する業者に対しての補助金を今年度さらに規制緩和して見直しましたが、5区画以上宅地をつくる業者に対して上下水道とかを敷設する工事費用を補助するというような制度ですが、これが数百万くらいですけども町で宅地を作って販売しますと利益が出なくてかなり

持ち出しになります。少しでもお金を業者に出すことで、業者に宅地を整備してもらうには、有効な施策かなと思います。

委員 　新しい保育士も県外から来るということですが、県外から独身の方が来られても住居がなかなか無いので淀江とか日吉津や米子とかに住んでしまっただけで通われるようになることを防ぐためにも、町内にワンルームマンションとか賃貸住宅を増やせばよいのではないかと思います。

町長 　賃貸住宅はおっしゃるとおりで課題です。町営住宅は常に満杯状態で一部屋あけば3~4人とか申込みがあって抽選をずっと繰り返しています。民間の賃貸アパートが少ないという現状なのですが、作る方も商売ですので土地代が大山町は米子に比べたら安いのですが、建物代は変わりませんので総額からすると大差がないんですね。大差がないならば米子に作った方が空室リスクが低いので誰もが大山町に作りたがらないというのが現状です。

委員 　空き家を利用するっていうのはやっぱり難しいですか。

町長 　どうしても利活用できる空き家っていうのは少ない状況で、今、企画情報課が担当していますが空き家を借りたい、買いたいという人の登録よりも空き家を売りたい、貸したいという人の登録の方が少ないんですね。

委員 　とにかく住みたい、家が欲しいという需要は非常に高いということですね。理想的な形は実家に近く、行き来ができる範囲内の場所に新しい家を建てつつという意見が出ていたのですけれども、そういう人がほとんどだろうなと思います。

町長 　子育て支援策のことなのですけれども、そもそも大山町の教育は非常に県内でもトップレベルの教育をしてもらっていると思います。将来そこで子どもを育てたいなと思っている人がどれだけいるかが重要になると思います。ただ内容がよくても物理的に住めないと住めませんので住宅の整備や宅地の整備は必要だと思います。ただ全ての人が家を建てるというようにはいかないと思いますので、賃貸住宅の需要に対して応えられるだけの個数は確保できていないので、考えていきたいと思っています。

委員 　町内の過疎化になっているところにも子どもたちは暮らしているわけです。しかし、冬場、お父さんとお母さんが仕事に出るときに除雪が大変で職場に通えない、仕事の関係で集落を出て行かれる方を何組も見えています。非常に残念に思います。ここで暮らし続けていきたいけれど、出て行かないといけない要因をできるだけ取り除いてほしいと思います。

委員 　町長さんの町づくりの話聞いていくうえで効率的に町を発展させていく考え方、これはある意味大切だと思います。それに対して正面から反対するという考えはないのですが、物ごとは多面的だと思うんですね。一方には大山に近い方では、そういう立場の人はその土地を投げ出すわけにはならない。そこで踏ん張るしかない。そんな現実があるわけですから効率的に町を作っていくという考え方にあわせて、いろいろな立場の人がいることも考えてもらいたいです。

委員 給食費は半額、保育所の入所が3才以上は無料になって保育所の米飯給食という定住化施策としての子育て施策が出てきています。今の時点でも未満児の保育士数が足りない。正職員をたくさん募集しているとか給与の面の待遇をよくして大山町の魅力をあげてきているという事はお聞きしているんですが、保育士の確保や、従来の保育所のスペースがたりないことをどのように考えておられますか。

町長 正職員の採用は新年度から6名ですね。次年度からも積極採用はしていこうと考えています。嘱託職員に関しましては待遇の改善ということで民間の保育園、長年勤めている方が民間に引っ張られて行かないように処遇改善をしました。勤めれば勤めるほど給料が上がるように改善もしました。これは保育士の面談で出てきた話なのですが、今までの風習とか今までの保育園の文化的なものがあって、新しいことをするとき、なにかをやめればよいのですが、やめられなくてどんどん増えていく状態が続いているようですので、こういったところの見直しは必要じゃないかと思います。

委員 いつ書かれるのかなと思うくらい子ども一人一人の連絡帳を書かれたり、本当にハードな毎日を奔走されていると思います。学校の先生も一緒だと思いますが休憩も取れないんじゃないかというようなハードな仕事だと思います。定住化のこともどなることになるのですが、米子に出るんだったら町内にとどまって欲しいということを知って、そういうことでこういった施策を若い世代に対して提案をされたのかなと理解をした所もあるのですが、子どもを育てるといのが、親は子どもに育てられる部分もあるのかなというところもあって、若いとわからない部分もあるので、お金ではなく人の力も欲しいというのを感じていて、今住んでいるところも、大山町内に出ていくのではなくて、今ある地域の中でも人の力でなんとか人がとどまるような施策があればよいと思います。

委員 先日、大山小学校の感謝祭に参加したのですが、その時の地域の人のボランティアが多くて74人参加されていました。大山小学校の子ども達は、ボランティア一人一人にお礼を述べていました。若い人から年配の人まで名前を呼ばれて子ども達から感謝の言葉ももらったんですけども、地域の子も達から感謝の言葉ももらったなら、すごく嬉しい気持ちになりました。そこに住んでもっと役立ちたいという気持ちにさせられたんですね。

町長 地域の人と関わりが大きいのは定住化につながりやすいというのはたしかにあるんです。地域の人とまったく交流なく育てば、地域に愛着が生まれないと思うんですね。

定住化施策で若い子育て世代が住みやすいようにとあったのですが、今の既存の集落に住んでおられる方に必要なサービスについて公共工事はほとんどなくなっている状態で、外出支援だとかデマンドバス、福祉タクシーとかの施策が必要ですので、今年度もデマンドの時間や料金の見直しをしたり福祉タクシーも初乗り料金を見直しています。こういうふうに見直しをしていますが、これに

も財源が必要です。人口が減ると福祉的な高齢者施策はもとより、全町的な行政サービスができなくなると思います。今の集落に住んでいる人が一生を終えるまで不便なく住んでいただくためには、福祉的なサービスも行政が提供していかないといけない。その為には財源が必要ですので、どこで財源が生まれるかという若い子育て世代が住んでくれることが税収につながります。町内のどこかに残ってくれていれば、その集落を維持する財源も生まれるという考え方でいます。

米子に出るくらいなら町内に最低でも残ってもらいたい。地元の集落に残るか、町内の別のところに残るのかを競っているのではなくて、米子に出るか町内に残るのかを競っているところです。町内にとどまる場所がないと、どんどん人が出て行ってしまう状態が続きますのでなんらかのストッパーになるものが町内に必要ではないのかなという状態で施策をしています。

次長

福祉という話が出てきましたので、次の2つめの大山町の児童福祉施策に移りたいと思います。「児童福祉という視点でいかに家庭を支援していくか、親と子どものつながりを大切にしていくか。」その部分は教育委員会だけが抱えて解決できる部分ではなくなっているというのを感じていて、児童福祉が充実すれば定住化施策にもつながるんじゃないのかと感じているところです。

町長

機構改革で今、幼児・学校教育課に要対協があって健康対策課に子育て支援室があり、母子保健は福祉介護課がやっていて、課がかなり分かれてやっていますが、児童福祉に関する事はひとまとめにして集約したうえでやっていけないかと検討しております。子どもの貧困は家庭の貧困であって、そのような家庭は介護の問題も抱えておりますのでいろいろなケースもあり、一つの現象だけじゃなくて全部がつながっています。だから包括的に家庭に支援していかないと改善に向かわない。

委員

兄弟なんかがおられるところで、下の子どもが保育園、上の子どもが小学校や中学校におられて問題を抱えている家庭も結構ありますよね。集約してなにか成果が出るなら、一人でもそういう状況を改善していくことができるなら、大事なことだと思います。

町長

なぜ児童福祉の話を教育総合会議に出したかということ、教育と児童福祉って相反するところがあるんです。まだ政策としてやるつもりはないですけども、休日保育などは「休日に安易に預けると親がダメになるとか。親にもう少し子育てさせないと。」といった教育的な考えになるのですが、児童福祉を考える保健師の考えからすると、あずけるところもなくたまったストレスが子どもに向って虐待になるよりも逆にあずけるところが必要だと。ここが対立するところなんですけれども、どこで線引きをするのかという所が難しいところだと思います。

委員

それは保育士の業務が増えていることもあるので、そこは対処しないと保育士の先生方もギブアップでばててしまうことにもなります。どこまで町として行政としてかかわるのか。

- 委員 日曜日に利用させてもらったことがあるのですが、ファミリーサポートセンターはよい制度だなと思いますのでもっとたくさん周知されたらよいと思います。
- 町長 ファミリーサポートの制度はすごくよいなと思いますが、利用率が低いのは周知ではなくて知らない人にあずけたがらないというのがネックになってくると思います。それをどう解消するのかということですよ。保育所にあずけたがる理由は安心感しかないんですよ。料金的には気軽にあずけられそうな気がしますけれども、そこには不安があって、子どもをあずけるのに不安な所にあずけたくないというのが親心ですので、それをどう解消するかでファミリーサポートの仕組みをうまくまわすことができると思います。
- 委員 比較的近所の人で固定していてセッション化してもらって、毎週何曜日と何曜日の何時からというようにしていました。受け入れも自分がお願いしやすい地域の方が出てくればよいと思います。
- 委員 比較的小さい町ですから、顔が見えていたり名前がわかっていたりすると安心だと思う。
- 町長 人を固定するのはよいと思います。
- 委員 ファミリーサポートセンターも使い方をちょっと工夫すればよいものになるなと思いました。
- 次長 最初の町長さんの挨拶の中にもありましたが、今日が意見交換の場であり、考え方をすりあわせる場になったのではないかと考えています。本日は有難うございました。